2000年とやま国体を終えて

第55回国民体育大会 あいの風 夢のせて
2000年とやま国体

ハンドボール部

大町　大輔（3年）

国体を終えた今、辛かった練習の日々や楽しかったことなど、いろいろなことが思い出されます。

ハンドボールを始めた頃、僕はただ単にハンドボールが好きで、楽しければそれでいいと思っていました。しかし中学二年の頃、自分が高校三年の時に地元で国体が行われるのを知り、本気でハンドボールに取り組むようになりました。

そして中学校の時から、たくさんの強化練習や県外遠征に参加しました。高校に入学してからも、多くの県外遠征、そして韓国遠征にも行ってきました。しかし一番辛かったのは、夏の練習でした。それでも、太陽が照りつけるなか、影一つないグランドで、走りまわり、汗をかいて、泥だらけになりながらもチームのみんながお互いに声をかけあい、助けあったので、辛い練習にも耐えることができました。そして、チームの一人一人の絆は、全国のどのチームにも負けない強いものになりました。そのため、春の選抜大会でみごと優勝することができました。この時僕は、絶対に三冠を取ることと心に決めました。しかしインターハイは、県予選で負けてしまいました。チームのみんなが、悔しい思いをしたので、国体では「絶体に優勝してやる。」という強い意志を持っていました。

そして国体では、みんなの思いが一つになり、念願の地元国体での優勝を成し遂げることができました。この優勝は、今までご指導頂いた金原先生をはじめたくさんの先生方、そして今まで、支援や応援してくださった方々への最高の恩返しになったと思います。そして僕は、この経験を生かし、これからもハンドボールに関わって生きていきたいと思います。

自転車部

的場　俊輔（3年）

僕達は国体を目標に、一年のときから練習を積んできました。休みもほとんどなく、合宿ばかりが続きましたがそんなつらい練習を支えてくれたのが家族と部員達でした。

家族は僕が広島や東北地方で試合があったとき応援に来てくれたり、食生活を考えてくれたりと家族みんなが僕の練習を理解してくれていたので非常に心強かったです。

部員のみんなとはつらい合宿を乗り切るにつれ結束力が強くなっていき、お互いに励まし合いながらいい雰囲気で国体に臨むことができました。

国体が終わったと同時に僕達三年生に引退しましたが、今まで自転車部で活動してきたことは後悔していないし、よい自信になったと思います。最後になりましたが、国体のために力をかしてくださった皆さんに、この場をかりてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

生徒会長

中村　多江（2年）

国体の主な準備は、看板の作成、袋詰めの作業、会場設営の三点でした。

看板の作成とは、富山県を含め、各県からの代表選手へ激励の意味をこめて、ベニヤ板に心援メッセージを書く作業でした。各クラスに二枚配布しましたが、氷見に因んでブリを描いたり、ハンドボールを描いたりと、それぞれの作品に工夫が凝らしてありました。仕上げは美術部員にお願いし、全て素敵な看板に仕上がりました。

袋詰め作業とは、パンフレットやルールブック等を紙袋に詰めていく作業でした。思った以上の紙の量に圧倒され、今日中で終わるのかと心配になりましたが、皆が協力的な姿勢で黙々と働いてくれたので、無事終えることができました。

氷見高校も会場となった二千年富山国体。その準備や運営にあたって、生徒会が特別苦労したとは思いません。皆何らかの形で携わり、精一杯働いていました。氷見高校生も県の代表として出場することに、自分も何かの形で役に立ちたいとの思いで、そういった作業も、苦には感じなかったのだと思います。

慌ただしい日々ではありましたが、半世紀に一度という貴重な大会の準備に携わることができて、光栄に思います。

平成十二年度部活動成績

▼運動部

◎平成11年度第23回全国高等学校ハンドボール選抜大会
・男子ハンドボール部　優勝
（平成11年3月）

○平成12年度全国高等学校総合体育大会
・自転車部
1kmタイムトライアル　第8位
中田　博之（2年）

○第53回秋期富山県高等学校野球大会
準優勝

○第5回北信越高等学校新人陸上競技大会
女子100mハードル　第2位
村上麻理子（1年）

○第55回国民体育大会自転車競技
・少年男子4km速度競走　第8位
中田　博之（2年）

ハンドボール競技
・少年男子　第1位
・少年女子　第5位

▼文化部

○第43回中部日本吹奏楽コンクール富山県大会
・吹奏楽部　金賞

○平成12年度富山県高校写真展
久保　敬宏（2年）　優秀賞

○第39回富山県高校放送コンテスト
・放送部　テレビドキュメント部門　優良賞

母校ニュース

新任挨拶

教頭　喜多　清

私は前に昭和四十三年から六十三年まで十九年間本校に勤務していました。そして、今度再び勤務させて頂く事になりました。十三年の時を経て人は変わりましたが、建物などは体育館を除けば元のままといってよく、なんとなく安堵感が湧いて来ます。

最近先生方が生徒を指導している様子を見ていて昔を思い出させる情景に何度も出会いました。少し紹介してみます。本校の生徒には自分の将来を見通して計画的にコツコツ努力するタイプより、純朴であるが楽天的で、立ち上がりが遅く、我々を心配させるタイプが昔も今も多数派であること。

このような生徒に面接指導をしている担任が躍起になって大きな声で発破かける場面。他人を過剰に意識して自分を出せない生徒を理解するのに苦労している若手の教員というような場面は私には懐かしいものです。そして、懐かしいばかりでなく指導法については昔の手法に色々と工夫改良が加えられ、ノーハウが蓄積され一種の校内文化といえるようなものが築かれているようで、心強くおもいました。このように、創意と工夫をこらして熱心に指導している先生方と一緒に仕事をすることが巳来ることは何より有難く、新任職員一同一所懸命頑張りたいと思います。

■平成12年度新任教職員（H12・4・1現在）

《校　長》吉田　洋（←富山北部高）
《副校長》喜多　清（←高岡南高）
《数　学》大井　孝信（←富山工高）
《数　学》飴井　浩美（←新湊女子高）
《理　科》高田　正光（←志貴野高）
《英　語》原田　隆（←福岡高）
《英　語》佐々木　ちか子（←福光高）
《保　体》井山　嗣夫（←水橋高）
《国　語》鎌谷　聡子
《理　科》宮崎　佳子
《保　体》樽見　祐子
《英　語》アレハンドラ・キンテロ（←アメリカ合衆国）
《地　歴》多田　素子
《数　学》今城　英志
《理　科》加藤　千尋
《英　語》狭間　成美
《芸　術》奈良吉　雄
《家　庭》安居　しのぶ
《商　業》林　武司
《事　務》福田　淳子（←高岡工芸高）
《事　務》金山　智子

■平成12年度転退出教職員（H12・3・31現在）

《校　長》林　誠一（←新湊高）
《副校長》三木　修（←伏木高）
《地　歴》小倉　仁（←福岡高）
《数　学》大場　範明（←県教委）
《数　学》森田　正範（←砺波高）
《数　学》山崎　法雄（←大門高）
《理　科》吉田　学（←福野高）
《英　語》鈴木　紀子（←退職）
《英　語》狭間　成美（←退職）
《英　語》川南　真智子（←高岡西高）
《家　庭》桜木　峻子（←福岡高）
《英　語》メリッサ・フーパー（←帰国）
《公　民》濱下　知之
《理　科》今井　香織
《保　体》二上　ひろ美
《事　務》浜出　文枝（←高岡ろう学校）
《事　務》貴島　晴久（←生涯学習室）

叙勲・褒賞・表彰

○勲四等旭日小綬章　森越　廣士　氏（中十八）
○勲五等・瑞宝章　加藤　道郎　氏（中九）
○藍綬褒章　扇沢　是海　氏（中七）
○県教育功労者表彰
〈優良教職員〉木原　勝之　氏（高十一）
〈優良体育・スポーツ活動推進者〉
氷見高校男子ハンドボール部

事務局より

同窓会報「第十一号」をお届けいたします。

本年は二〇〇〇年富山国体が行われ地元氷見市ではハンドボールおよび自転車競技の会場として熱戦が繰り広げられました。

特に、ハンドボール競技の部では本校生徒および本校OB、OGの大活躍により見事に総合優勝を遂げることができました。

これも本校同窓生の皆様方の日頃からのご支援の賜と深く感謝申し上げます。

来年はいよいよ二十一世紀を迎えることになりますが会員各位の一層のご活躍をお祈り申し上げます。

※最近、同窓会名を利用して、出版物注文等の勧誘がありますが、本校とは一切関係ございません。御注意下さい。

平成11年度　同窓会会計決算報告書

平成11年4月1日～平成12年3月31日

1　一般会計

〈収入の部〉　単位：円

科目	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越金	428,394	428,394	0	
会費	280,000	278,000	−2,000	卒業生1,000円×278人
入会金	280,000	278,000	−2,000	〃
雑収入	506	157	−449	預金利息
計	989,000	984,551	−4,449	

〈支出の部〉

科目	予算額	決算額	残額	備考
会合費	650,000	407,305	242,695	総会、役員会、関東関西支部総会
事務費	80,000	59,893	20,107	郵送料、事務用品
同窓会報発行費	120,000	83,790	36,210	
慶弔費	30,000	1,827	28,173	
予備費	109,000	0	109,000	
計	989,000	552,815	436,185	

収入合計984,551－支出合計552,815＝差引残高431,736（翌年度へ繰越：普通預金）

平成12年度　同窓会会計予算書案

平成12年4月1日～平成13年3月31日

1　一般会計

〈収入の部〉　単位：円

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
前年度繰越金	431,736	428,394	3,342	
会費	277,000	280,000	−3,000	卒業生@1,000×277人
入会金	277,000	280,000	−3,000	〃
雑収入	264	606	−342	預金利息
計	986,000	989,000	−3,000	

〈支出の部〉

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
会合費	650,000	650,000	0	総会、役員会、関東関西支部総会
事務費	80,000	80,000	0	郵送料、事務用品
同窓会報発行費	120,000	120,000	0	復刊4号印刷代
慶弔費	30,000	30,000	0	香典、弔電
予備費	106,000	109,000	−3,000	
計	986,000	989,000	−3,000	

第11号《復刊第4号》

富山県立氷見高等学校

2000（平成12）年12月20日

同窓会報

■ 発行／同窓会事務局　〒935-8535 氷見市幸町17-1 氷見高等学校内 Tel 0766-74-0335 Fax 0766-72-8136

私の経歴

同窓会副会長
稲積佐一

昭和二十二年四月、六、三、三制の学制改革により氷見中学校にも、新制の併設中学校が設置され、前年度に入学した二年生と、前々年度に入学した三年生とが併設中学生となりました。

この両学年の生徒達は、併設中学校卒業後、本人の選択により、新制氷見高校生（高校第三回卒業生と第四回卒業生）となります。

この年は氷見中学創立二十周年記念の年に当たりましたので、記念事業として、在校生の力でとの事で十月十四日から四日間、記念式典、祝賀会、追悼会、運動会、弁論大会、音楽会、相撲、野球、卓球の各大会を盛大に行いました。

当時は戦後間もない時で物資の不足も甚だしく、山中より杉枝や丸太を集め、アーチを作ったり手書きの看板を作ったり、又バザーの食材を集めたり等々大変な苦労を重ね、どうにか体裁を整えた事等は、今でも鮮明に思い出されます。

翌二十三年三月の卒業生は百五十名でしたが、その内の六十名は選択により、四月から新制氷見高校へ進学致し、一年間学び氷見高校第一回卒業生として巣立ちました。

旧中学校は同年四月一日より県立氷見高等学校として看板を書替えた訳ですが、実質的には従来の中学校と内容は全く変わっていなく、他の旧制中学校、女学校、実業学校も同様、そのまま昇格致し改称しただけで計四十一校が誕生致しました。

同年六月、アメリカ軍政部の指導により「男女共学、総合学区制の実行」を強制され、同年九月氷見高校、氷見高等女学校、氷見農業水産高校の三校が合併させられ、新制度の氷見高等学校となりました。

この時、氷見高等女学校より生徒十名が三年に編入生として迎えられました。

昭和二年創立以来の初めての女子生徒でしたので、学校も生徒も、大変な戸惑いを感じた事も有りました。

私は中学の卒業で終える予定でしたが、当時、地理担任の高木（旧姓山本）力之助先生から第一回卒業生になるチャンスは今を於いて無いから是非もう一年間頑張れとの激励を受け、思い直して通学致しました。

然し、勉強はあまりしませんでしたが、春のバレーボール、夏の登山、秋の卓球、冬のスキー等々、野球以外のスポーツは殆ど出来ましたので、大変楽しい学生生活を送らせて頂きました。

卒業後は実家の酒販業に従事を致しましたが、又、高校同窓会へも出席致しました。

昭和二十七年頃に、同窓会組織の強化が計られ、高校、卒業生からも是非役員が必要であるとの事で、計らずも私が副会長に選任されました。爾来、各周年記念事業にお世話を致して参りました。三十周年、四十周年、五十周年と続き、六十周年記念事業の麗峰会館建設につきましては、学校、PTA、同窓会、総力を傾注して無事完成致しましたが、皆様方の並々ならぬご協力に改めて感謝を申し上げる処でございます。

更に七十周年記念事業には見事な校門が設置され、今では県下一番の環境であると言っても過言ではありません。

同窓会の任務は、これで終わった訳ではございませんが、時代の流れと共に変化に対応出来る会の運営が必要であろうと考えます。

どうか後輩の皆様方には今後の活動を切に願う処でございます。

新任のご挨拶

学校長
吉田　洋

同窓会会員の皆様方には、日頃より母校の教育振興に格別のご理解とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

昭和二年四月の氷見中学校創立以来、学制改革など幾多の変遷を経て、これまで二万名を越える先輩諸氏が、国の内外で目ざましい活躍をなさっておられますことは、在校生にとってこの上ない誇りと喜びであり、ご同慶のいたりであります。

さて、同窓会誌「七十年のあゆみ」の中で、初代校長・山田美治先生は「質実剛健、醇厚中正」の高邁な校風を標榜し、教育方針に「個性尊重」「生徒理解」などを掲げるとともに、勤労作業の時間を設けて知行合一の教育を実践されたとありました。このことは、二十一世紀の目指す教育と何ら変わることのない不易の部分であろうと思われます。

今、情報化や国際化、科学技術の進展、環境問題や少子高齢化など、社会の状況が大きく変化する中で、これからの学校教育は、完全学校週五日制の下、「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付けさせ、個性を生かし、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」を培うことが求められています。

まさに、氷中が標榜した建学精神であり、脈々と受け継がれた「文武両道」の校風を目指す「山の学校」の精神そのものであると考えています。

ところで、本校にとって二〇〇〇年という節目は、画期的な年でした。男子ハンドボール部が全国高校選抜大会初制覇に続き、四十二年ぶりに富山県で開催された「とやま国体」では、多くの市民や全校生徒で埋め尽くした大観衆の前で、見事優勝を成し遂げました。その栄光は、私たちに大きな夢と感動を与えてくれました。また、自転車部の国体八位入賞、女子ハンドボール部のインターハイベスト8、野球部の秋季北信越大会ベスト8進出やブラスバンド部の中部日本吹奏楽コンクール入賞など数多くの部が活躍した年でした。一方、学校行事においては、生徒会が主体となって盛り上がった体育大会や学校祭をはじめ、国際化が進展する中で、オーチャード・パーク・ハイスクールとの国際交流も一層深まりをみせた実り多い年でもありました。これもひとえに先輩諸氏が築かれた伝統と母校に対する格別のご支援のお陰と改めて感謝申し上げる次第です。

新しい二十一世紀の扉が開かれようとする今、教職員が心を新たにして、さらなる発展、充実に努めてまいりたいと思います。どうか今後とも、変わらぬご指導と一層のご支援を賜りますようお願い申し上げ、新任のご挨拶といたします。

関東支部会員の集い

開催月日／平成12年10月28日
場　　所／京王プラザホテル「綿」の間
出 席 者／来賓6名、取材2名、会員120名
祝　　電／富山県人会連合会会長　佐藤助九郎様

御来賓として、同窓会本部から稲積副会長、母校より吉田校長、番匠先生、田中先生、東京氷見会から東海副会長、富山県人会連合会から高廣常務理事をお迎えし、第十七回目の関東支部総会及び懇親会が開かれた。

今回は一二〇名の会員が出席し、会場を急遽広い結婚式場に変更するほどの盛況で石出新会長のもと幸先の良いスタートを切ることができた。

会長より来賓および多数の参加者への謝辞のあと「同窓会関東支部総会及び懇親会の場は懇親のみならず、異業種で活躍する会員間の情報交換の場としても有効活用できるので、特に若い世代の会員の参加を更に呼びかけたい」との開会の挨拶があった。

来賓の挨拶として吉田校長の二〇〇〇年富山国体での母校の活躍状況の報告などがあった。

また、会長より会則の一部改正案が提案され、出席会員一同の拍手をもって承認された。

これを受けて前会長の井波さんを顧問に委嘱し、併せて今回新設の代表幹事として島越・因泥の二氏、副代表幹事と小岩・大石・森谷の三氏の委嘱／紹介が行われた。

懇親会では高校二〇回卒のシャンソン歌手浜本京子（真咲杏子）さんの心のこもった熱唱があり、楽しい司会者・共演者によるビンゴありで大変盛り上がり、時の経つのも忘れるほどでした。

十四のテーブル間では楽しい交流があり、氷高在学時代の懐かしい話などに花が咲いた。

今回は沖縄から一名、地元からも参加者があり、より幅の広い活動への第一歩を印した。

最後に、矢代副会長より「懐かしい氷高OBが集うこの会の意義と楽しさを今回出席頂けなかった会員にも伝えて頂き、より盛大な会にしましょう」との元気一杯の挨拶で来年の再会を誓った。

今年も同窓会本部からの氷見特産の「かまぼこ」をお土産に戴き散会した。

皆様のご支援に心より感謝します。

副会長　嶋崎紀久男

関西支部総会

開催月日／平成12年4月16日(日)
場　　所／大阪・三井アーバンホテル
出 席 者／来賓　吉田　洋様　氷見高校長
高辻芙智代様　氷見高同窓会
七徳　満男様　同窓会
蔵　　太作様　恩師
太田　和美様　有磯同窓会
出席者　三七名

「総会・グルメの会」の報告

『世の中が病んでいる』こんな言葉を耳にしたことはありませんか。たしかに現代は、男性・女性にかかわらず時代背景からもとても厳しい時代といえます。まして、ふるさとを遠く離れ都会で生活している人達にとっては痛切に感じられるのではないでしょうか。我々関西で生活している同窓会の会員の方々にとっても例外ではないと思われます。

体がカラカラに乾ききっている今、私たちは身も心も癒してくれる『癒しの水』を求めているのです。そんな時こそ、同窓会の中で聞こえてくる懐かしい方言や故郷の話、幼い頃の思い出などたわいもないことが、ゆったりとした時の流れのなかで、身も心も癒してくれているのです。

四月十六日には第十六回総会が開催されました。ご来賓の方々から母校の今の様子などのお話を聞いたり、久しぶりに皆さまの元気な御顔を拝見したりで、懐かしい故郷が甦って来たような会でした。

また、会の行事として、グルメの会を開催しております。今年も六月四日には奈良県にある、割烹東吉において行われ、久しぶりにゆっくりと、優雅な食事をいただきました。お料理と共に懐かしい思い出話しも一品に添えられ、より一層おいしくいただきました。

ここに『身も心も癒してくれる会』『癒しの会』と呼んでも決して過言ではない『関西支部総会』と『グルメの会』を開催した事を御報告致します。

（追伸）会では、この記事を伝え聞いた関西在住の卒業生の一人でも多くの皆さまの参加を、心よりお待ち致しております。

高戸　進（高十七）